「島根は鳥取の左側です」「いいえ、砂丘はありません」ー。

アニメ「秘密結社　鷹の爪」シリーズの人気キャラクターから誕生した島根県公認の「スーパー大使吉田くん」を使い、2011年から毎年発行中の「自虐カレンダー」に登場してきたギャグだ。世界征服を目指す吉田くんが全国2番目に人口が少ない島根県の応援団長として、時に全国最少のお隣・鳥取県との比較を交え、自虐的に島根の存在をアピールする。この奇策、ご存知だろうか。

人口規模が小さな山陰の両県にとって、交流人口の拡大が創生に向けた命綱だが、最下位争いを続けてきた外国人宿泊者数をみるとここ数年、鳥取県に軍配が上がる（昨年は島根が最下位47位、鳥取39位）。要因は海外直行便の有無だ。県境に近い鳥取側の米子空港にはソウル便のほか2年前に香港便が就航し、旅館なども海外セールスに積極的。境港へのクルーズ船も好調だ。一方、かつてソウル便誘致で鳥取県に敗れた島根県では、出雲空港に地域航空会社が就航。名古屋に続き今年、静岡、仙台と結ばれ、東京などの主要路線を含め全8路線と充実し、国内旅行者の開拓に活路を求める。

方向性は一見、異なるようにみえるが、もともと半径約50キロ圏の「中海・宍道湖・大山圏域」には秀峰・大山や皆生温泉、水木しげるロード（以上、鳥取）から、出雲大社や国宝松江城、庭園日本一の足立美術館、玉造温泉（同、島根）まで観光名所が集積。外国人観光客も県境に関係なく足を伸ばす。相互誘客の必要性に気付いた両県や圏域市長会もそれぞれ県境を越えてインバウンド機構を立ち上げ、観光PRに力を入れる。

2018年版「鷹の爪」カレンダーには島根、鳥取の2県をまとめて自虐する新たな趣向が加わった。ギャグのひとつは「鳥取、島根の検索候補が『どっち』」ー。「島根は左、鳥取は右」と刷り込みながら、「どっちにも来て」と相互誘客で力を合わせれば、世界征服に一歩近づくかもしれない。

山陰中央新報社　営業局担当局長兼地域振興部長　藤井満弘

島根県観光振興課の室内に張り出されている2018年版の自虐カレンダー

「しまねSuper大使」の吉田くんのPR看板